

豊後大野市シンポジウム
人口減少時代の地域づくり
～持続可能な地域を実現し『幸せ』に暮らす～

要旨

■第一部：基調講演

第一部では、南畠みらい協議会の内野豊和様、寺井恵様、齋本さくら様よりご講演をいただきました。一度は校区の児童数が70名まで減少したものの現在では100名を超えるまでに回復した南畠地域はどのような取組をしてきて、どのように地域を運営してきたのかについて、ご説明をいただきました。

内野様からは協議会の設立からこれまでの歩みについてご講演いただき、どのような経緯で協議会を立ち上げたのか、イベントをする際はイベントの趣旨等を明確にすること、取組に若年層が参加しやすくなる仕組み、今後の活動の展望などについてお話をいただきました。

寺井様からは協議会から発足した「株式会社南畠ぼうぶら会議」についてご説明をいただきました。講演の中では、なぜ法人化することとなったのか、法人の中でどのような事業に取り組んでいるのか、収益化事業に取り組むことでどのような影響があったのかなどについて、お話をいただきました。

齋本様からは若者が地域づくりに参加するコツや外から見た時の南畠地域の特徴などについてお話をいただきました。お話の中では「若者に責任のある役割を渡すこと」、「明確な目的があるイベントを開催すること」、「ベテランと若者それぞれができる事をかけ合わせ、動くこと」など現在地域づくりに参加する中で感じていることについて述べられていきました。

■第二部：パネルディスカッション

第二部では、県内外で地域づくり活動に取り組まれている方々に「なぜ若手は地域運営組織（地域活動）に参画しにくいのか」、「若手が参画したいと思うにはどのような要因が必要か」、「地域での収益事業により地域づくりにどのような影響があったか」などについてディスカッションをしていただきました。

南畠みらい協議会の寺井様は、団体の認知度がないこと、誰が何をやっているのかわからない不透明さが参画しにくい要因だと述べられ、同世代で誘ってくれる方の重要さや、女性がキーパーソンであることが、南畠地域で若手参画が進んでいる要因であるとのことでした。また、ある程度地域で稼げる取組を行うことで、チャレンジしやすい体制が取れたのがいい影響だったとのことでした。

南畠みらい協議会の齋本様は、年齢が上の方ばかりで、自分が何をしたらいいのかわか

らなかったという実体験を語られたうえで、地域おこし協力隊として参加をする中で、関わる各人がきちんと役割をを与えられているのが南畠地域の特徴であるとおっしゃっていました。また、補助金も一過性のものではなく、効果の高いものに充てることで、地域の方の注目を集めたりでき、関わってくれる人が増えたとのことでした。

JOYVILLAGE 株式会社の江副様は、「副業的に、小さく関わる選択肢」を用意してあげるのが大事だとおっしゃっていました。参加をしてくれる人が無理なく、自分の得意な分野に、短時間で関わられる部分を作つてあげることで、若者に負担がかからないような関わり方を提供することの重要さを、実際に会社を経営している中で感じたことだとおっしゃっていました。また、稼ぐ取組をすることで関わってくれる人や地域と関われる機会が増えたことがいい影響ともおっしゃっていました。

ながたに振興協議会の森様は、世代間の関心ごとや情報源にギャップがあり価値観が異なることを認識することが重要であるとおっしゃっていました。新たな取組をするためには、これまでの取組をやめる勇気も必要で、これまでのボランティアでやってきた活動に対して少しでも還元できるようにながたに振興協議会では活動しているとのことでした。また、先人への経緯を忘れてはいけない重要な部分であるともおっしゃっていました。